

北広島市立学校適正配置等審議会第 2 回審議会まとめ

(1) 基本的な考え方に関すること

- ・定住人口を増加させるうえで、学校の存廃方針を明確にした方が良い。
- ・部活動については、国において地域移行の動きがあることから、本議論とは切り離して検討するべき。
- ・北広島市の特色である小中一貫教育をアピールできるよう、学校づくりを考えていくのが良い。
- ・保護者アンケートの教育環境に対する期待にある選択肢を最大限生かすことができるよう検討するのが良い。

(2) 5 地区別に配置

- ・まちの歴史的経緯
- ・住民の心情
- ・地域の伝統や地域性
- ・地理的条件
- ・登下校時の安全面
- ・保護者等が積み重ねてきた伝統
- ・教育活動（部活動を含む）やボランティア等の活動が地区内である程度完結

(3) スクールバス等の諸条件整備を前提に、地区にこだわらず適正規模化

- ・1 学年複数学級となるよう配置し、そのうえで条件整備を検討
- ・部活動等の教育活動を考慮すると一定の規模が必要
- ・質の高い教育を受けることができるよう学校を配置することとし、そのうえで、自転車通学の緩和やスクールバスの運行等の条件整備を検討

(4) 個別具体の意見

- ・西の里地区及び西部地区については地区単独で配置。大曲地区及び東部地区については学級数が確保できるのであれば現状のまま。団地地区については統合し、必要に応じてスクールバス等の条件整備。
- ・小学校は、通学にかかる負担や安全面を考慮し、現状の配置とする。中学校は、統合し、規模を確保するのが良い。例えば、団地地区内で 1 中学校、西部地区と大曲地区で 1 中学校など。